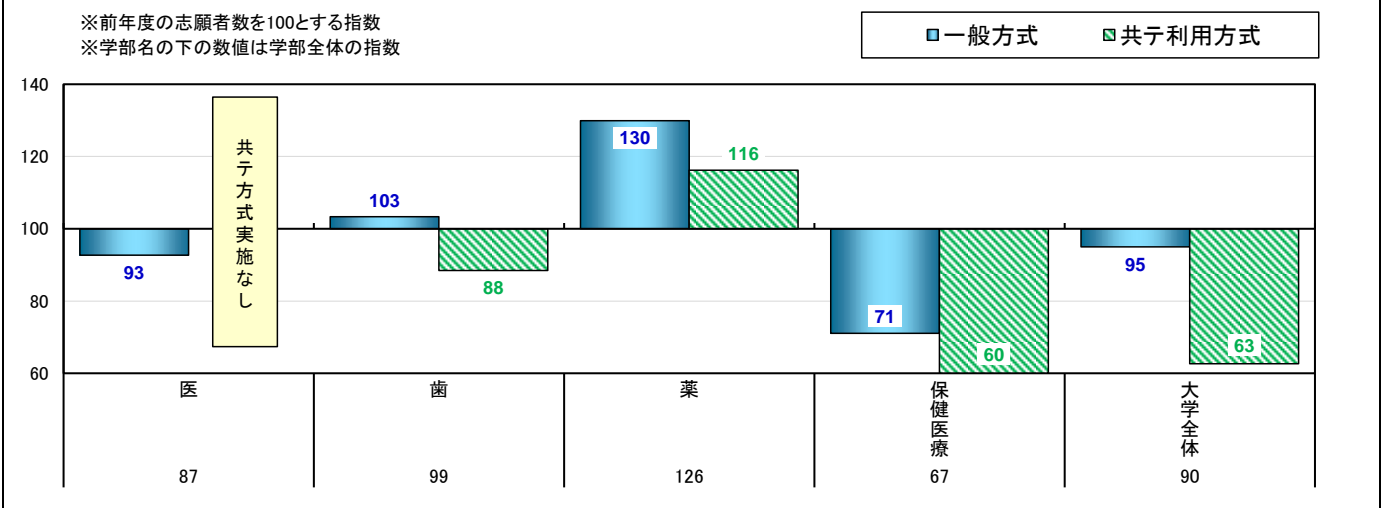


昭和大：大学全体では減少、共テはB方式廃止で大幅減少

一般：-306人 共テ：-401人



主な入試変更点

選抜方法：医…〈茨城県枠〉新規実施
医、歯、薬、保健医療…〈共テ併用・B方式〉廃止
募集人員：医…〈I期〉75人→82人、歯…〈共テ併用〉10人→5人
保健医療(理学療法)…〈一般・I期〉13人→15人、〈共テ併用〉3人→2人
(作業療法)…〈一般・I期〉8人→10人、〈共テ併用〉3人→2人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、707人(90)の減少。学部別では、薬(126)を除く3学部で減少。方式別では、一般方式は、306人(95)のやや減少。共通テスト利用方式は、全学部で〈共テ併用・B方式〉を廃止した影響もあり、401人(63)の大幅減少で4年連続減少。志願者数は700人を下回った。ただし、廃止した〈共テ併用・B方式〉を除くと、38人(95)のやや減少に留まった。

〈一般方式〉

- 医(93)は、やや減少。方式別では、〈I期〉と〈II期〉との併願が可能なく地域枠との合計では(93)でやや減少で、志願倍率は35.6倍→27.0倍にダウン。なお、新規実施の〈茨城県枠地域枠〉を除くと(92)の減少。3月募集の〈II期〉(91)は2年ぶりに減少。志願者数は再び1,500人を下回った。
- 歯(103)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。志願者数は2年連続で500人を下回った。方式別では、〈I期〉(109)は2年連続減少の反動で増加。〈II期〉(87)は前年度の大幅減少に引き続き、2年連続減少。
- 薬(130)は、系統への高い人気に加えて、3年連続大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、〈I期〉(126)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加。〈II期〉(141)は5年連続減少の反動で40%以上の大幅増加。
- 保健医療(71)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。特に、(作業療法)(31)は減少率70%近い激減で2年連続減少。特に〈II期〉の志願者数は1人のみ。(理学療法)(50)は前年度大幅増加の反動で半減。〈I期〉〈II期〉のいずれもほぼ半減。(看護)(79)は減少率20%余りの大幅減少。特に〈II期〉は半減。

〈共通テスト利用方式〉

- 歯(88)は、〈共テ併用・B方式〉(地域別選抜)の廃止もあって、減少で3年連続減少、志願者数は170人を下回った。ただし、〈共テ併用・A方式〉のみでは、(96)のやや減少で、4年連続減少。
- 薬(116)は、系統への高い人気に加えて、2年連続減少の反動で大幅増加。しかし、志願者数は3年連続300人を下回った。
- 保健医療(60)は、〈共テ併用・B方式〉(地域別選抜)の廃止もあって、大幅減少で4年連続減少。〈共テ併用・A方式〉のみでも、(68)の大幅減少で、2年ぶりに減少、志願者数は300人を下回った。学科別では、3学科全てが大幅減少。前年度から継続する〈共テ併用・A方式〉のみの比較でも、(理学療法)(51)はほぼ半減。(作業療法)(59)は大幅減少で5年連続減少。(看護)(74)は大幅減少で3年ぶりの減少。